

分科会のまとめ 小学校 道徳科

授業者	海田南小学校 6年 隆杉 佳代
指導助言者	広島県立教育センター 指導主事 中野 詠美子 様
司会者	海田南小学校 清水 早苗
記録者	海田南小学校 坂本 由香

1 協議内容（○成果・●課題）

① 児童生徒の主体的に学ぼうとする姿が見られたか

- 児童は、自分の考えを理由も含めて自分の言葉で積極的に述べることができていた。
- 導入では、夢に関する児童のアンケートをもとに話し合いがもたれ、課題を設定されていたが、効果的であった。児童は強い興味を示し、意見が活発に出ていた。
- 展開後段で、アンケートに戻って考えるようにすれば、より自分事として考えられたのではないだろうか。

② 児童生徒が自分の考えを深めるための指導の工夫がされていたか

- 児童の発問に対して、教師が的確に切り返し発問をすることができており、児童は自分の経験に反映させて詳しく具体的に自分の考えを発言することができていた。
- 資料の主人公の成長の過程が一目で分かったり、児童が「ぼく」の心情を改めて考えてみたりできるように、構造的な板書になっていた。
- 教師が資料を範読しながら、ポイントを短冊にして掲示していったことで、内容を再確認することなく内容に入ることができ、しっかり考える時間を多く確保することができていた。
- 黒板の情報量が多すぎるように思われる。国語科の読み取りのようになってしまったり意識がずれたりすることがあるので、内容を精選することが必要である。
- ワークシートに心情円盤を使用していたが、実際に動くようにしたものを使用し、考えの変容を自分で確認できるようにしてもよかった。ペアトークで素直に自分の考えを述べていたので、グループに広げるなど、もっと思いの交流をするとよかったのではないか。
- 自分の考えをまとめる時間がもう少し長ければ、発言できる児童がもっと増えていたのではないか。

③ 児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりはどうであったか

- 学習の始めと終わりには、語先後礼の挨拶が全員きちんとできていたし、音がしないように注意して椅子を引く児童の姿が見られた。
- 友達の意見に対して、自然に拍手がでるなど、お互いに認め合う温かい雰囲気ができていた。
- ネガティブな発言をする児童の思いも、教師だけでなく児童もしっかり受け止めることができていた。



2 指導・助言

今日の授業から（3つの視点で）

- ① 主体的な学びをさせるためには、児童に問題意識をもたせることが大切である。その上、それは必然性があるものでないといけない。また、ねらいに迫るためにも、問題意識と本時のねらいを直結させた導入を組み立てていく必要がある。導入のあり方として、「①資料以外の児童の体験などをもとに考える。②『このお話で、考えてみたいことは何だろう。』と資料から問う。③価値をもとに問題意識をもたせる。」などが考えられる。本時の課題として、「夢をもち困難を乗り越え、努力することのよさって何だろう。」とすることもよいであろう。

児童に、自分だったらどうするか、自分はこう考えるなど、多面的（内容項目の多様性）・多角的（一人一人の時間軸，空間軸で）に考えさせることが大事である。

- ② 児童により深い学びをさせるために、教師自身の主題の絞り込みが重要になってくる。今回の指導案では、ねらいとする価値のところにきちんと位置付けられていて大変よい。児童に何を学ばせたいか、それを一言で表すと何が、はっきりしていれば、そこに向かわせるための繰り返し発問も適切にできると考えられる。

中心発問については、道徳的価値に最も近づく場面を選択して考えることが大事である。今日の授業のもよいが、『ぼくは、大きく息をはき、力強く何度もうなづいた。』とあるが、どうしてそうしたのだろう。」と、主人公の心が最も動いた場面に注目して、中心発問を組み立てていってもよかったのではないだろうか。

- ③ 自分の考えは、発表したらみんなに受け入れられるという安心感のある学級で、雰囲気が大変よかった。そのため、発言は教師に対してではなく、児童お互いに向けて行うという対話的な学習ができていた。

ペアトークもよいが、より多様な考えに触れ自分の考えを深めていくためにも、意見交流の人数を増やしていく必要がある。机をコの字にするなど配置の工夫があってもよいのではないか。

「その考えいいね。」と褒めると、「これはよくてあれはよくないのかな。」「何が正解だろう。」と児童は正解を求めがちになってしまう。「そういう考えもあるんだね。」と児童の考えを認めることが重要になってくる。「褒める」から「認める」という指導者の意識の変革が求められている。